

＝プレスリリース＝
国立母子保健センターの拡張を通じた周産期医療サービスの強化
- 国立母子保健センター拡張計画 完成式典 -

11月28日午前8時半より、無償資金協力事業「国立母子保健センター拡張計画」（供与限度額11.93億円）の完成式典が執り行われました。同式典には、ビン・チン副首相、マン・ブンヘン保健省大臣他関係閣僚、堀之内駐カンボジア日本国大使、安達一 JICA カンボジア事務所長らが出席しました。



式典の参列者の様子



完成した国立母子保健センター

カンボジアでは、1970年代からの内戦の影響で、医療従事者数が激減した他、機材や施設が破壊され、保健システム全体が大きな打撃を受けました。内戦終結後、多数のドナーの支援により、妊産婦死亡率は大きく改善しましたが、周辺国と比較すると依然高い死亡率に留まっています。

このような状況に対し、日本は無償資金協力により1997年に国立母子保健センターを建設するほか、技術協力により病院の管理・運営能力、研修活動、診断・治療水準等の向上を支援してきました。その結果、同センターは、3つの機能（行政・臨床・研修）を担うカンボジア最大の産婦人科病院となっています。

地方の医療施設とのレファラル体制が強化されることにより、2006年頃から産科手術や低出生体重児等の管理、治療が必要な新生児の割合が増加し、質の高い緊急産科ケアの提供が求められるようになってきています。また同センターは研修機関として医療従事者への卒前・卒後研修を提供していますが、求められる医療サービスが高度化していることに伴い、施設の拡充が喫緊の課題となっていました。

本事業は、そういった新たな課題に対し、研修棟の新設、既存施設の改修及び医療機材の整備を行い、研修機能の強化・拡充及び産科ケア体制の整備を図ると同時に、技術協力事業によって実施されている「分娩時及び新生児期を中心とした母子継続ケア改善プロジェクト」を通じて、同センターの産婦人科・新生児科のトップレファラル病院としての機能強化に寄与することを目的としています。

今後、新研修棟では年間約650人の卒前研修、2,050人の卒後（現任）研修を実施する予定です。また、新生児治療室（NCU）、集中治療室（ICU）及び回復室を増床したことにより、年間約1,400件のハイリスクケースに対処可能となり、妊産婦死亡率のさらなる低減につながることを期待されます。

<プレスリリース問い合わせ先>

JICA カンボジア事務所 広報班 戸倉、青木

Email : Tokura.Yuko@jica.go.jp Aoki-Yukiko@jica.go.jp / Tel : +855-(0)-23-211-673

所在地 : 6th, 7th, 8th Floors, Building #61-64, Preah Norodom Blvd, Phnom Penh, Cambodia